

敬愛する福岡女学院に通い、関わるすべての皆様。

学院の聖句であるヨハネによる福音書 15 章 1 節「私はぶどうの木、あなた方はその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。私を離れては、あなた方は何もできないからである。」とあります。

とても素晴らしい聖書の言葉の一つです。そして、葡萄を象徴とした校章などはとてもデザインが素晴らしいと思います。その恵みあふれる中で、聖書はどこに「留まる」のかと申しますと、それはイエス・キリストに留まることをさしています。

キリストの中に”つながる(留まる)”という事を具体的に言うと、”二つの事”が言えます。

一つは主イエスの体として、この地上に建てられた教会の役割、つまり、福岡女学院が教会とつながっていくことに留まりつづける事が「ミッション」という言葉を広げ続けるのではないのでしょうか。私が福岡にきて、28 年が過ぎましたが、来た当初、ある方からこんなことを聞きました。それは、ある女性が「ミッション」にいつているのよというのです。「ミッション」ってどこですか？と聞きなおしたら「福岡女学院よ」というのです。福岡の地において「ミッション」というのは「福岡女学院」そのものを指している部分が多いことを知らされました。創設の時に祈り、国の政策と戦った徳永ヨシ先生の魂の信仰は今も福岡女学院の中にしっかりと根づいていることに心から感じた時であり、私自身、伝道の大切さを改めて心に刻みました。福岡女学院の歩みに敬意を表します。

最後にキリストに留まることの二つ目は、**御言葉に留まる事**です。福岡女学院は毎日、礼拝を守っています。とても大切であり、貴いことです。「継続は力なり」と申しますが、続ける中にはさまざまな困難、試練があります。時に「火が消えてしまうような時」があります。それでも「火を灯し続けて礼拝を続けている」所にこそ、福岡女学院の誠の価値、キリスト主義学校としての意義を感じます。

「微力ながら、後援会においてお支えができれば」と祈り、祈りの行動をしていきたいと願います。お交わりにあることを心から感謝申し上げます。